

NGO外国人救援ネット・ニュース, No.3

NGO外国人救援ネット, 1997.1.15

請求記号:震災-6-z33. - 4p

* 震災関連記事のみテキスト化しています

巻頭言

NGO外国人救援ネット副代表 もりき かずみ

グローバル化、自由貿易、ビジネスマンビザなどが、昨年11月フィリピンで開催されたAPEC首脳会議の中心テーマでした。一昨年のAPEC大阪会議では、アジア太平洋地域の市民やNGOも、独自にAPEC・NGO会議を開催しました。フィリピンにも29カ国から308人がマニラに集まり、市民会議をもちました。日本から25人が参加、私も後半参加しました。しかし、この民間会議に参加予定の8人の外国人がフィリピン政府から入国拒否されるなど、政府側からは歓迎されていません。

アジア太平洋地域の貿易や投資の自由化、そのための開発をすすめていく話が、各国政府や経済界だけで決められ、先進国資本や多国籍企業のアジア進出大型プロジェクトが組まれています。日本の政府開発援助（ODA）がこれらプロジェクトに多額の予算をつけています。しかしながら、大資本の進出による経済格差、環境破壊、労働条件の悪化が懸念されます。開発地域の農村、漁村の人びとが被る影響が大きく、住民の生活体系が破壊されていると、市民やNGOが指摘しています。

グローバル化という言葉は国境のない世界を想像させ、人の自由な往来を保証するかのような錯覚をおぼえます。なるほど、安い労働力を求める多国籍企業にとってはボーダレスの時代です。同時に、現在の経済システムの中では、高賃金を求めた先進国への出稼ぎに頼らざるをえない状況が作り出されています。しかし、国境を越えても自由な往来や生活の保証があるとは限りません。

外国人救援ネットは神戸の地で、主に国境を越えてやってきた人たちの日常の相談を受け、一つ一つの解決をめざそうとしています。日本を生活の場として選んだ者どうしがこの時代を一緒に生きるために、助け合える関係をむすんでいこうとしています。地球規模の人と人の関係をめざすもうひとつのグローバル化が、この運動を支えているように思えます。

今年のAPECはカナダで開催されます。アジア太平洋地域の人権が守られていくために、新しい時代を皆さんとともに築いていきたいと思います。

THINK GLOBALLY! ACT LOCALLY!
